

読み方は
バヤルラー

БАЯРЛАЛАА

ありがとう
の意味です。

モンゴルでの活動が2年目を迎えました。去年、モンゴルの学校に赴任してすぐは、拙いモンゴル語で話をするのがやっとでした。また、子供たちや先生方との人間関係もちろんできていなかったのも、心のよりどころがなく、しんどい思いをすることもありました。しかし、長い夏休み明けの2年目の始業式・入学式では、「はな先生、こんにちは！！」と子供たちが会う度に挨拶をしてくれたり、「夏休みはどうだった？」と先生が尋ねてくれたりしました。“挨拶を交わすこと”“私をただの外国人ではなく一人の先生として認識してくれること”“モンゴル語が良く分かること”は、私に居心地の良さを感じさせ、また頑張ろうという気持ちを高めてくれました。現職教員特別参加制度のため来年の3月に帰国しますが、残りの任期もモンゴルの先生や子供たちと一緒に頑張っていきます。

始業式・入学式

浴衣を着ると、モンゴルの方に喜んでもらえるという同期の話を聞いて、今年は浴衣を着て行きました。



転動してきた先生と一緒に川辺でピクニックをして、親睦を深めました。



環境教育

ダルハン第一学校の校庭や地域には、たくさんのゴミが落ちています。それを見過ごすことが出来ず、1年目は生徒会のメンバーとゴミを拾う計画をしたり、毎週必ず一回は私一人でもゴミを拾ったりしていました。

しかし、もっと子供たちや学校の先生に、校庭にたくさんゴミが落ちていることに目を向け、キレイな学校にしていこうとする気持ちを高めてほしいと思い、2年目は授業を計画しました。(対象学年：4年生)

<①ゴミにはどんなものがある？私たちの学校の現状を知る>

身の回りにはどんなゴミがあるのかを話し合い、どうしてゴミをポイ捨てしてはいけないのかについて話し合いました。また、たくさんゴミが落ちている私たちの校庭の写真を見せ、どうするべきかを考える授業を行いました。



<②校庭のゴミ拾いと分別>

校庭のゴミを拾いたいという子供たちの思いから、ゴミ拾いを行うことになりました。校庭にはどんなゴミがあるのか、一番多いゴミは何かについて話し合いました。また、それらのゴミを分別しました。



<③拾ったゴミは本当にごみ？リサイクルについて学ぶ>

モンゴルのリサイクルと日本のリサイクルについて写真を用いて紹介しました。

<④学んだことをみんなに広めよう！ゴミについてのポスター作り>

自分たちが学んだことを他学年や地域に広めるためにポスター作りを行いました。



<児童の学習の感想>

- ・お菓子を食べた後は、ゴミ箱にゴミを捨てる。ゴミ箱がなくてもポイ捨てしてはいけないと思った。
- ・私たちがポイ捨てをしなければ、自然環境は守られると思った。
- ・日本のリサイクルについて知ることが出来た。分別するとリサイクルできると分かった。など。

授業を通して、改めてポイ捨てをしてはいけないこと、リサイクルについて知ることが出来た様です。これらのことを学んだだけでなく、一人一人の子供たちが自分の生活に活かしてくれることを願いながら、授業を終えました。